

「デンマークの3市町村自治体（オーフス・シルケボー・ネストベ）における24時間ホームケア基本統計調査と夜間時間帯のサービス提供のしくみ」

Statistical questionnaire survey and field work in 24 Hour Home Care in Denmark - How night home help service and home nursing is delivered in three Danish municipalities in Aarhus, Silkeborg and Naestved-

渡辺裕美
WATANABE Hiromi

要旨

本研究の目的は、1 デンマークの3市町村自治体（オーフス・シルケボー・ネストベ）における24時間ホームケア実態に関する基本統計を得る、2 各市町村自治体の夜間時間帯（準夜と深夜）のホームヘルプサービス利用率や訪問看護利用率を割り出し比較検討する、3 デンマークの夜間時間帯のサービス提供のしくみを知り、日本の24時間ホームケアを推進するための知見を得る、である。

研究対象は、デンマークの市町村、オーフス・シルケボー・ネストベ。

研究期間は、2013年4月1日～9月30日。研究1「デンマークの3市町村自治体（オーフス・シルケボー・ネストベ）における24時間ホームケア基本統計調査」（2013年1月・2月・3月の3ヶ月間のデータ）。調査項目：ホームヘルプサービス利用者総数と準夜と深夜のホームヘルプサービス利用者数、訪問看護サービス利用者総数と準夜と深夜の訪問看護利用者数等。研究2「24時間ホームケアサービス、特に夜間時間帯サービス提供に関するフィールドワーク」これらの研究にとりくんだ。

結果、ホームヘルプサービスの準夜時間帯（15時～23時）利用は、ホームヘルプサービス利用者全体を100人とする、オーフスの準夜ホームヘルプ利用者は23.1人、シルケボーの準夜ホームヘルプ利用者は33.9人、ネストベの準夜ホームヘルプ利用者は15.2人であった。ホームヘルプサービスの深夜時間帯（23時～7時）利用者は、ホームヘルプサービス利用者全体を100人とする、オーフスの深夜ホームヘルプ利用者は4.2人、シルケボーの深夜ホームヘルプ利用者は6.6人、ネストベの深夜ホームヘルプ利用者は5.7人であった。訪問看護は、シルケボーの訪問看護利用者全体を100人とする、準夜訪問看護利用は27.1人だった。深夜帯利用率は8.2人であった。

デンマークの24時間ホームケア提供のしくみを比較検討した結果、①ケアサービスの種類・量・夜間サービスの必要性を決定するケアマネジャーのニーズアセスメント、②ケアマネの判断に差が生じないためのサービス標準化の工夫、③民間ホームヘルプサービス事業所への24時間の稼働を契約条件とする市町村のコントロール、④夜勤時間帯専従職員雇用と厚遇、が日本の24時間ケアサービス普

及を推進するのではないかと示唆を得た。

キーワード：24時間ホームケア ホームヘルプサービス 夜間ケア

はじめに

日本では24時間ホームケアが期待されているが、夜間ケアを提供するサービス事業所がなければ、ニーズを持つ人がいても、在宅には戻れない。鶏が先か卵が先かの論ではないが、サービス提供体制のないところでは、夜間ケア利用者はいるはずもなく、夜間ケアの潜在需要は目に見えない。

デンマークでは1970年代から40年間かけて24時間ホームケアサービスを構築してきた。ソーシャルサービス法で、24時間のホームケアサービスを制度化することは市町村の責務と定められている。市町村は、ホームヘルパー・看護師・理学療法士・作業療法士を雇用し、市町村直営で、24時間体制でホームヘルプサービスや訪問看護を行っている。2003年、民間事業者ホームヘルプサービス参入開始となった。が、訪問看護は今も市町村直営公的サービスのみで、民間に門戸は開かれてはいない。市町村は、ケアサービスの財源は税負担でまかなわれることもあり、膨らむ一方のケアサービス予算を抑え、行政サービスのコスト削減と変革をすすめながらも、24時間ケアサービスを公的に保障してきた¹⁾。

デンマークの24時間ホームケアサービス利用実態についての基本統計、例えば、どのくらいの人口でホームヘルプサービスの利用者は何人いるか、夜間時間帯の利用率はどのくらいか、等を得ることができれば、日本の夜間ホームヘルプ利用の潜在需要推計に役立つのではないか。また、24時間ホームケアシステム、特に、夜間時間帯のホームヘルプと夜間訪問看護提供のしくみの詳細を知りたい。日本ではそれぞれの施設でそれぞれの施設介護職が24時間を担い、在宅ホームヘルプ事業所ごとのサービス提供であるが、デンマークは違う。デンマークは市町村ごとに、地区特性をふまえて（ケアを必要とする人口が集中するエリアと、分散するエリア、というように）、市町村全域を包括したケアサービスのシステムをつくっている。さらには、日中・準夜・深夜という24時間の時間帯をつなぐしくみがある。深夜、在宅ヘルパーが施設に立ち寄り、施設職とヘルパーが2人介助で、リフトを使って、施設居住者の就寝介助を行うこともある。夜勤の訪問看護師が、介護施設で医療的ケアを行うこともある。ある1つの市町村ではなく複数市町村を対象に24時間ホームケア研究を行うことでホームケアシステム構築のポイントが見えるのではないか。このように考え研究にとりくむこととした。

本研究は、2013年4月～9月、東洋大学在職中、デンマークのオーフスにあるVIA University Collegeに海外研究サバティカル期間に行ったものである。図表スライドが英語なのは、研究協力を得たデンマーク自治体に研究結果を報告したスライドを使用しているからである。不十分な英語表現であるがご容赦いただきたい。

なお、本論の背景となる、デンマークの24時間ホームケア制度の法制度や、申し込みからホームヘルプサービスの時間量がアセスメントされ提供されるプロセスについては、別文献¹⁾にまとめているのでそちらを参照してほしい。

II 研究目的と研究方法

1. 研究目的：

①デンマークの3市町村、Aarhusオーフス・Silkeborgシルケボー・Naestvedネストベにおける、24時間ホームケア基本統計調査を行い、夜間時間帯（準夜と深夜）のホームヘルプサービス利用率や訪問看護利用率を割り出す。

②デンマークの3市町村、Aarhusオーフス・Silkeborgシルケボー・Naestvedネストベにおける、24時間ホームケアシステム、特に夜間時間帯のサービス提供のしくみを把握する。

③デンマーク研究から、日本の24時間ホームケアを推進に役立つ知見を得る。

2. 研究期間：2013年4月1日～9月30日

3. 研究対象：デンマークの3市町村、Aarhusオーフス、Silkeborgシルケボー、Naestvedネストベ

Table1. Population and Aging in 2013

	Aarhus	Silkeborg	Naestved
Total population	319,094	89,352	81,163
Elderly population (+65 years old)	43,077	15,264	15,254
Percentage of elderly	13.5%	17.1%	18.9%

1st January 2013

Source: Denmark Statistics www.statbank.dk in Denmark

4. 研究方法：質問紙調査である「デンマークの3市町村（オーフス・シルケボー・ネストベ）における24時間ホームケア基本統計調査」と、フィールドワークによる「24時間ホームケアサービス、特に夜間時間帯サービス提供に関するフィールドワーク研究」

5. 研究対象市町村への研究協力依頼方法：海外研究サバティカルとして滞在したデンマークのオーフスにあるVIA University Collegeの研究部門長を通して、オーフス市に研究協力依頼を行った。ネストベは、筆者の長年の研究フィールドであり、ホームケア部門管理者を通して研究協力依頼を行った。シルケボーは、ネストベのホームケア部門管理者からシルケボーのホームケア管理者を紹介してもらい、研究協力依頼を行った。

6. 倫理的配慮：研究計画書に倫理的配慮について記述し、事前に送付した。データやインタビュー内容は適切に扱い、研究目的以外では使用しないこと、研究結果は出版や学会等で公表すること、自治体データについては自治体名を明記して公表することを説明し、同意を得た。

7. 研究A「デンマークの3市町村（オーフス・シルケボー・ネストベ）における24時間ホームケア基本統計調査」実施方法

それぞれの市長村ホームケア部門管理者を通して、質問紙調査をメールで依頼し、2013年1月・2月・3月の3ヶ月間の24時間ホームケアデータ記入を依頼し、メールで回答を得た。

調査項目：ホームヘルプサービス利用者総数・介護ホームヘルプサービス利用者数・家事ホームヘルプサービス利用者数・介護ホームヘルプも家事ホームヘルプも両方を使っている利用者数・準夜時間帯のホームヘルプサービス利用者数・深夜時間帯のホームヘルプサービス利用者数・訪問看護サービス利用者総数・準夜時間帯の訪問看護利用者数・深夜時間帯の訪問看護利用者数・ホームヘルプサービスの提供主体別利用者数（公的直営ホームヘルプサービス利用者数、民間運営ホームヘルプサービス利用者数、公的直営ヘルプと民間ヘルプの両方MIX利用者数）・緊急通報利用者数・配食サービス利用者数、等。〈Fig 1〉

質問紙作成するにあたっては、渡辺（1997）²⁾が行った過去の研究項目と同じ項目を含み、比較検討できるようにした。質問紙は英語で作成し、VIA 大学の研究補助者にデンマーク語版に翻訳依頼した。さらにVIA 大学教員がチェックし、質問の意図が通じることを確認した。統計は2013年1月・2月・3月の3ヶ月間のデータ記入を依頼した。ホームケア利用者は毎月変動するため、特定の1ヵ月データではバラつきがある。よって3ヶ月の平均を算出して基本データにすることとした。

Question 2: Statistics of 24 hours home care

	2013		
	1 st Jan.	1 st Feb.	1 st March
	Antal	Antal	Antal
Modtagere af hjemmehjælpialt (permanent homehelp total)			
Modtagere der udelukkende modtager personlig pleje (Personal careonly) <i>*Definition of personal care: morning care, evening care, transfer, bath, include help for self care.</i>			
Modtagere der udelukkende modtager praktisk hjælp (practical helponly) <i>*Definition of practical help: cleaning house, washing cloth, shopping, include housekeeping.</i>			
Modtagere af både personlig pleje og praktisk hjælp (Bothpersonalcare and practical help)			
Harbehov for aftenpleje			
Harbehov for natpleje			

Fig.1 Questionnaire survey about 24 hour home care in Aarhus, Silkeborg, Naestved

8. 研究B「24時間ホームケアサービス、特に夜間時間帯サービス提供に関するフィールドワーク研究」実施方法

オーフス、シルケボー、ネストベにおいて、①各市町村のホームケア管理者とホームケア部門リーダーへのインタビュー（延べ16名）と、実際のホームヘルプサービスや訪問看護の同行訪問（延べ22回）を行い、24時間ホームケアサービス、特に夜間時間帯サービス提供に関するフィールドワークをすすめた。

II 24時間ホームケア基本統計調査

1. ホームヘルプサービス利用率

オーフスは、総人口319094人、65歳以上人口43077人、高齢化率13.5%。オーフスでは65歳以上人口の21.9%にあたる9452人がホームヘルプサービスを利用していた。内訳として、介護ヘルプだけの利用者が790人、家事ヘルプだけの利用者が3853人、介護ヘルプと家事ヘルプの両方を利用している人が4809人だった。15時～23時の準夜帯ホームヘルプサービス利用者は2185人、23時～7時の深夜帯ホームヘルプサービス利用者は393人だった。（2013年1月・2月・3月の平均）

シルケボーは、総人口89352人、65歳以上人口15264人、高齢化率17.1%。シルケボーでは65歳以上人口の15.3%にあたる2330人がホームヘルプサービスを利用していた。内訳として、介護ヘルプだけの利用者が458人、家事ヘルプだけの利用者が795人、介護ヘルプと家事ヘルプの両方を利用している人が1070人だった。15時～23時の準夜帯ホームヘルプサービス利用者は790人、23時～7時の深夜帯ホームヘルプサービス利用者は153人だった。（2013年1月・2月・3月の平均）

ネストベは、総人口81163人、65歳以上人口15254人、高齢化率18.8%。ネストベでは、65歳以上人口の17.7%にあたる2704人がホームヘルプサービスを利用していた。内訳として、介護ヘルプだけの利用者が270人、家事ヘルプだけの利用者が921人、介護ヘルプと家事ヘルプの両方を利用している人が1503人だった。15時～23時の準夜帯ホームヘルプサービス利用者は412人、23時～7時の深夜帯ホームヘルプサービス利用者は153人だった。（2013年1月・2月・3月の平均）（ネストベでは質問紙に3ヶ月の平均値は記入されて回答されたが、各月欄は未記入で返却されたため不明）

デンマークではホームヘルプサービスは、市町村が提供するケアサービスの核となっているといわれるが、3自治体の65歳以上人口の15.3～21.9%がホームヘルプサービスを利用しており、高齢者のホームヘルプサービス利用率を数値データとして把握できた。

Table2. Basic statistics : Home Help in Aarhus

Aarhus	Jan 2013	Feb 2013	March 2013	Average
Total Number of Permanent Home Help User	9501	9451	9403	9452
Personal care only	787	796	786	790
Practical help only	3881	3847	3830	3853
Both Personal Care and Practical help	4833	4808	4787	4809
In the Evening (15:00:-23:00)	2181	2188	2186	2185
At Night (23:00-7:00)	406	395	378	393

Table3. Basic statistics: Home Help in Silkeborg

Silkeborg	Jan 2013	Feb 2013	March 2013	Average
Total Number of Permanent Home Help User	2311	2346	2332	2330
Personal care only	444	470	460	458
Practical help only	811	796	778	795
Both Personal Care and Practical help	1056	1060	1094	1070
In the Evening(15:00-23:00)	810	777	783	790
At Night (23:00-7:00)	137	164	157	153

Table4. Basic statistics: Home Help in Naestved

Naestved	Jan 2013	Feb 2013	March 2013	Average
Total Number of Permanent Home Help User	2704	2710	2697	2704
Personal care only	285	282	242	270
Practical help only	932	915	917	921
Both Personal Care and Practical help	1487	1513	1508	1503
In the Evening(15:00-23:00)				412
At Night (23:00-7:00)				153

2. 家事援助ホームヘルプサービスと介護ホームヘルプサービスの利用の重なりと分散

ホームヘルプサービス利用者全体を100として比率を計算すると、介護ホームヘルプサービスだけを利用している人は、8.4~19.7%だった（オーフス8.4%、シルケボー19.7%、ネストベ10.0%）。家事援助ホームヘルプサービスだけを利用している人は34.1~40.8%だった（オーフス40.8%、ネストベ・シルケボー73.4%）。家事と介護の両方を必要とする人は、45.9~55.6%（オーフス50.9%、シルケボー45.9%、ネストベ55.6%）だった。

3自治体ともに、ホームヘルプサービス利用者の半分ほどは、家事援助と介護の両方を必要とする利用者である。家事援助だけを利用している人が4割ほどいる。介護だけを利用する人も1割前後いることが示された。

Table5. Number of people requiring Home Help by Service type

	Aarhus	Silkeborg	Naestved
Total Number of Permanent Home Help Users Rate / 65 Age +	9452 (21.9%)	2330 (15.3%)	2704 (17.7%)
Personal care only Rate / Total Number of permanent HHU	790 (8.4%)	458 (19.7%)	270 (10.0%)
Practical help only Rate / Total Number of permanent HHU	3853 (40.8%)	795 (34.1%)	921 (34.1%)
Both Personal Care and Practical help Rate / Total Number of permanent HHU	4809 (50.9%)	1070 (45.9%)	1503 (55.6%)

3. 夜間時間帯ホームヘルプサービス利用率の差の検定

ホームヘルプサービス利用者全体を100として比率を計算すると、準夜時間帯（15時～23時）のホームヘルプサービス利用率は、オーフス23.1%、シルケボー33.9%、ネストベ15.2%であった。

深夜時間帯（23時～7時）のホームヘルプサービス利用率は、オーフス4.2%、シルケボー6.6%、ネストベ5.7%であった。

Table6. Night Home Help Users

	Aarhus	Silkeborg	Naestved
Total Number of Permanent Home Help User Rate / 65 Age +	9452 (21.9%)	2330 (15.3%)	2704 (17.7%)
Number of HHUser in the Evening(15:00-23:00) Rate / Total Number of Permanent Home Help User	2185 (23.1%)	790 (33.9%)	412 (15.2%)
Number of HHUser at Night (23:00-7:00) Rate / Total Number of Permanent Home Help User	393 (4.2%)	153 (6.6%)	153 (5.7%)

準夜時間帯のホームヘルプ利用率に注目し、3市町村のホームヘルプサービスの利用者を、準夜時間帯ホームヘルプの利用群と非利用群に分け、カイ二乗検定を行った。結果、3市町村で今回得られた準夜時間帯ホームヘルプ利用率には、統計学的な傾向はあるものの、有意差はなかった。

しかし、深夜時間帯ホームヘルプ利用率には統計的な差が見られた。深夜時間帯ホームヘルプの利用群と非利用群に分け、カイ二乗検定を行った結果、オーフス、シルケボー、ネストベのデータには1%水準で有意差がみられた。よって、深夜ホームヘルプサービス利用率は、シルケボー6.6%、ネストベ5.7%、オーフス4.2%の順であるといえる。

Table7. Summary: Home Help Service

	Aarhus	Silkeborg	Naestved
Home Help Users/ 65 Age +	21.9%	15.3%	17.7%
Only Personal Care / Total HHU	8.4%	19.7%	10.0%
Only Practical Help / Total HHU	40.8%	34.1%	34.1%
Both Personal care and Practical help / Total HHU	50.9%	45.9%	55.6%
Home Help Users in the Evening (15:00-23:00)/ Total HHU	23.1%	33.9%	15.2%
Home Help Users at Night (23:00-7:00)/ Total HHU	4.2%	6.6%	5.7%
Home Help Users in the Evening(15:00-23:00)/ Both Personal care and Practical help	45.4%	73.9%	27.4%
Home Help User at Night (23:00-7:00)/ Both Personal care and Practical help	8.2%	14.3%	10.2%

Table8. Home Help in the Evening - Aarhus, Silkeborg, Naestved -

	Total Number of Home Help Users	Number of HHU in the Evening	Not use
Aarhus	9452	2185 ns	7267ns
Silkeborg	2330	790 ** ▲	1540 **
Naestved	2704	412** ▽	2292 **

$\chi^2 = 244.553, p < .01$

▽ significantly less,

▲ significantly bigger

Number: Average of 3 month, Jan, Feb, March in 2013

Table9. Home Help at Night – Aarhus, Silkeborg, Naestved-

	Total Number of Home Help Users	Number of HHU in the Evening	Not use
Aarhus	9452	393 ** ▽	9059 **
Silkeborg	2320	153 ** ▲	2177 **
Naestved	2704	153 * ▲	2511*

$$\chi^2 = 28.636, p < .01$$

▽ significantly less

▲ significantly bigger

Number: Average of 3 month , Jan, Feb, March in 2013

4. 訪問看護

訪問看護については、シルケボーだけからデータを得た。オーフスとネストベからは回答を得ることができなかった。シルケボーは、総人口89352人、65歳以上人口15264人、高齢化率17.1%。シルケボーでは2026人が訪問看護を利用していた。ホームヘルプサービス利用者数を100とすると、訪問看護利用者は87となる。実際のホームヘルプサービス利用者群と、訪問看護利用者群の重なりについてはわからないが、数字の上では、ホームヘルプ利用者の87%が訪問看護を利用している。

訪問看護利用者2026人中、準夜時間帯の訪問看護利用者は549人で、27.1%にあたる。深夜時間帯の訪問看護利用者は165人で、8.2%であった。

Table10. Nursing Care service in Silkeborg

	Jan 2013	Feb 2013	March 2013	Average
Total Number of Nursing Care Users	2010	2038	2031	2026
Number of Nursing Care Users in the Evening	565	552	530	549
Number of Nursing Care Users at Night	170	167	159	165
Rate In the Evening /Total Nursing Care	28.1%	27.1%	26.1%	27.1%
Rate At Night /Total Nursing Care	8.5%	8.2%	7.8%	8.2%
Rate Total Number of Nursing Care Users/ Total Number of Home Help Users	87.0%	86.9%	87.1%	87.0%
Rate Night Nursing Care / Night Home Help	124.1%	101.8%	101.3%	109.1%

★Nurses in the Evening and Night time visit at Nursing Home Users in Silkeborg

5. ホームヘルプサービスの提供主体別利用者数（公的直営ホームヘルプサービス利用者数、民間運営ホームヘルプサービス利用者数、公的直営ヘルプと民間ヘルプのMIX利用者数）

オーフスでは、公的ホームヘルプサービスの利用者が5877人（61.9%）、民間ホームヘルプサービスの利用者が2179人（22.9%）公的ホームヘルプと民間ホームヘルプを双方ともに利用している人が288人（3.0%）だった。

シルケボーでは、公的ホームヘルプサービスの利用者が1457人（63.0%）、民間ホームヘルプサービスの利用者が721人（31.2%）公的ホームヘルプと民間ホームヘルプを双方ともに利用している人が154人（6.7%）だった。

ネストベでは、公的ホームヘルプサービスの利用者が1871人（69.2%）、民間ホームヘルプサービスの利用者が661人（24.4%）公的ホームヘルプと民間ホームヘルプを双方ともに利用している人が151人（5.6%）だった。

Table11. Home Help Users by Service supplier
- Public service, Private service, MIX Users-

	Aarhus	Silkeborg	Naestved
Public Service Users	5877 (61.9 %)	1457 (63.0%)	1871 (69.2%)
Private Service Users	2179 (22.9%)	721 (31.2%)	661 (24.4%)
MIX Users (Public service and Private service)	288 (3.0%)	154 (6.7%)	151 (5.6%)

6. 緊急通報アラーム・配食サービス

オーフスの緊急通報アラームの保持者は、1239人。ホームヘルプサービスの利用者を100とすると13.2%、介護ホームヘルプサービスと家事援助ホームヘルプサービスの両方ともに利用している人を100とすると25.9%になる。シルケボーの緊急通報アラーム保持者は、795人。ホームヘルプサービスの利用者を100とすると34.1%、介護ホームヘルプサービスと家事援助ホームヘルプサービスの両方ともに利用している人を100とすると74.3%にもなる。

配食サービス利用者は、オーフスでは1499人。ホームヘルプサービス利用者を100とすると15.9%の人が配食サービスを利用している。シルケボーの配食サービス利用者は722人。ホームヘルプサービス利用者を100とすると34.1%が配食サービスを利用していた。

Table12. Alarm Service

	Aarhus	Silkeborg
Total Population	319094	89352
Number of Elderly (>=65)	43077	15264
Total Number of Home Help Users	9452	2330
Number of Alarm Users	1239	795
Rate Alarm Service Users/Total Home Help Users	13.2%	34.1%
Rate Alarm Service Users/Both Personal care and Practical help	25.9%	74.3%

Table13. Food Service

	Aarhus	Silkeborg
Total Population	319094	89352
Number of Elderly (>=65)	43077	15264
Total Number of Permanent Home Help User	9452	2330
Number of Food Service Users	1499	722
Rate Food Service Users/ Total Home Help Users	15.9%	34.1%

Ⅲ 24時間ホームケアシステムに関するフィールドワーク

<オーフス>

オーフスは、総人口319094人、65歳以上人口43077人、高齢化率13.5%。デンマークの首都コペンハーゲンに次ぐユトランド半島で最も大きな自治体で、オーフス大学があり活気ある都市である。

1. ケアサービスメニュー

オーフス市のケアサービスメニューには、大きく、「訪問サービス」・「ローカルセンター」・「介護特別住宅」がある。訪問サービスには、①ホームヘルプサービス（介護ホームヘルプサービスと家事援助ホームヘルプサービスの2種類）、②緊急通報、③訪問看護、④リハビリトレーニング、⑤福祉用具、⑤住宅改修、⑥配食サービスがある。「ローカルセンター」には、アクティビティ、リハビリトレーニング、ビュフェカフェ方式のレストラン、看護師が常駐するクリニックがある。「介護特別住宅」の種類としては、①プライエム（日本の特別養護老人ホームに近く、介護職が24時間滞在している）、②高齢者住宅（日本のサービス付き高齢者住宅に近く、介護職は外部から訪問する）、③ショートステイがある。

2. ホームケアサービス拠点のローカルセンター

オーフスは広い。人口密度が高く密集した繁華街は小さく、農村部は広く、オーフス市を9地区に分けている。地区はさらに細分され、ローカルセンター37箇所を設置している。例えばVest地区にはローカルセンター5つおき、ローカルエリアごとにホームケアサービスを提供している。「リハビリトレーニング」と「認知症センター」は、オーフス全体をエリアとしてサービスを提供している

特徴でもあるが、オーフスはローカルセンターにヘルスクリニックを併設している。看護師が常駐するクリニックで精神科通院者の服薬確認や医療的ケアを受けることもできる。ローカルセンターには運動トレーニング機器があり、ビンゴゲームなどアクティビティも行われている。知人とおしゃべりしたり、いっしょにランチを食べることもできる。介護予防の拠点でもある。さらに、ローカルセンターは介護特別住宅や高齢者住宅との複合施設になっていることが多く、専門職が集まる場所でもある。訪問アウトリーチサービスもローカルセンターから行われる。ヘルパーステーションや訪問看護ステーションもローカルセンターの一角にあることが多い。保健・医療・介護が統合し、地区分権化されたケアサービスの拠点となっている。

3. ホームヘルプサービスの24時間提供のしくみ

①地区分担制 ローカルエリアを分け、居住地ごとに担当チームが決まっている

オーフスの中心部にあるMidbyen地区には、ローカルセンターMollestine とローカルセンターCarl Blochs Grade、ローカルセンターVetervangがあり、道路や公園などでローカルエリアを分けている。

Mollestineと Carl Blochs Gradeを合わせたローカルエリアに居住する市民の中で、ホームヘルプサービス利用者は147人。147人に対して、日勤（7-15時）ホームヘルパー14人、準夜（15-23時）ホームヘルパー3人、で訪問している。Vetervang地域のホームヘルプサービス利用者174人を、日勤ホームヘルパー20人、準夜ホームヘルパー4人、で訪問している。深夜（23-7時）は、ホームヘルパー2人が車1台にいっしょに乗り、Midbyen地区すべての範囲を訪問担当している。

②ホームヘルプサービス利用者の増減と密度によって、訪問エリアが変動

エリアの狭さ（広さ）が鍵となる。日勤は狭い範囲で、道路を隔てた町内会あたりで訪問するので、訪問と訪問の間のロスタイムが短くなる。だから、日勤時間帯では、朝7時、10時半、13時、というように何回も訪問可能となる。夜の時間帯に訪問を必用とする利用者数は昼間よりも少ないが、訪問を必用とする人は必ずいる。だから、日勤<準夜<深夜、というようにホームヘルパーの訪問範囲は広がる。

4. 訪問看護の24時間提供のしくみ

訪問看護は、Mollestineと Carl Blochs Gradeを合わせた地域を、日勤（7-15時）看護師2人で担当している。Vetervang地域を、看護師3人で担当している。準夜（15-23時）は、看護師1人がMidbyen地区すべての範囲を訪問担当している。深夜（23-7時）は、看護師1人が複数の地区を受け持っている。深夜（23-7時）はオーフス市全域を看護師3人でカバーするため、一人一人の看護師の受け持ち地区はかなり大きくなり、ドライブする時間も長くなる。

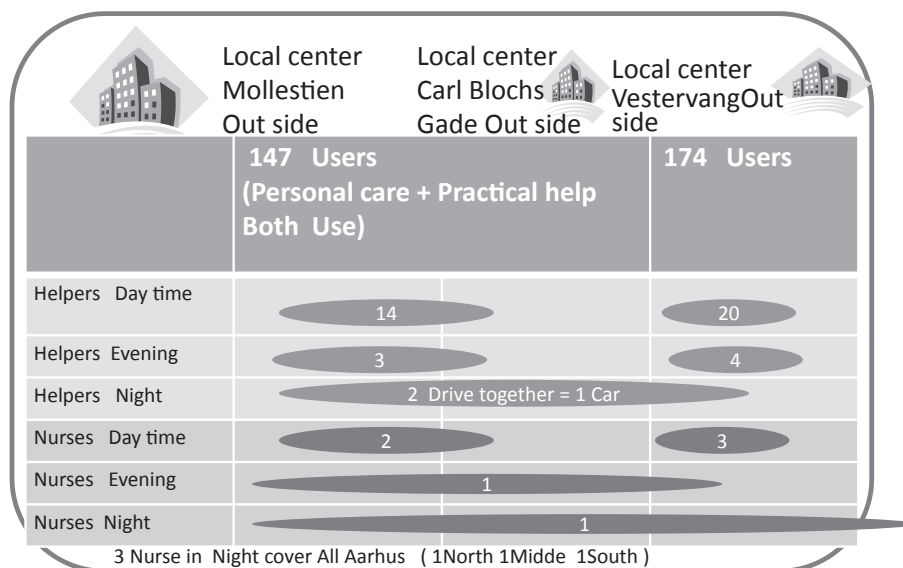


Fig.2. 24 Hour Home Care System in Midtbyen District in Aarhus

Table 14. 24 Hour Home Help Staffs in Midtbyen District in Aarhus

Local center Mollestien Outside	Local center Carl Blochs Gade Outside	Local center Vestervang Outside
Day Time 7-15	1 team 14 helpers (Total Employee 24) Locate at Mollestien Service in the area of Mollestien and Carls Blochs Gade together	1 team 20 helpers / (Total Employee 25) Locate at Vestervang Service in the area of Vestevang
Evening Time 15-23	3 helpers (Total Employee 6) Locate at Mollestien Service in the area of Mollestien and Carls Blochs Gade together	4 helpers (Total Employee 8 helpers) Locate Vetervang Service in the area of Vestevang
Night Time 23-7	2 helpers together (Total Employee 4) Night team Locate at Mollestien , Service cover All of 3 Local center Area	

Table15. 24 Hour Nursing Care staffs in Midtbyen District in Aarhus

Local center Mollestien Outside	Local center Carl Blochs Gade Outside	Local center Vestervang Outside A
Day 7-15	5 Nurses (Located Mollestien) / (Total Employee 12 Ns) (2Nurses cover : Mollestien Area + Carl BGV Area) (3 Nurses cover: Vestervang Area)	
Evening 15-23	1 Nurse (Located Mollestien) / (Total Employee 3 Ns) cover All 3 Local center outside	
Night 23-7	3 Nurses (Located Mollestien) / (Total Employee 8 Ns) cover All Aarhus Municipality (1Ns :North – Nord /Vejiby Riskov/ Christiansbjerg) (1Ns :Middle – Midtbyen/part of Vest/ Hasle Abyhoj/ Marselisborg) (1 Ns :South – part of Vest/ Vibe hojbjerg/ Syd)	

Midbyen地区で雇用されている日勤看護師は12人。Mollestineと Carl Blochs Gradeを合わせた地域を、日勤（7-15時）看護師2人で担当している。Vetervang地域を、看護師3人で担当している。Midbyen地区では準夜（15-23時）看護師3人が雇用され、毎晩1人が稼働している。深夜（23-7時）看護師として雇用されているのは8人。オーフス市全域を3つに分け、一晩に3人の看護師が働き、各地域を訪問する。深夜の訪問看護ステーションはエリアごとに分かれている

<シルケボー>

シルケボーは総人口89352人、65歳以上人口15264人、高齢化率17.1%の美しい森と水路で囲まれた美しい景観市である。

1. シルケボーのケアサービス組織

市行政として、政策部門・経済経営部門・ヘルスケア部門があり、実際のケアサービス提供は、3地区ごとに管理者をおき、それぞれの地区の①ホームヘルプサービス、②介護特別住宅、③訪問看護を行っている。また、78歳以上の市民を対象とした訪問スクリーニングも地区ごとに行われる。リハビリや障害部門のサービスや介護予防については、地区を分けずに全体で統括して行っている。

シルケボーの南地区は、地区リーダーの下に6組織、ホームヘルパーチーム1・2・3と、訪問看護チーム、認知症コンサルタントチーム、夜間ケアチーム（準夜と深夜をカバーするチーム）がある。南地区には、6つの介護特別住宅と、認知症の人のためのデイセンターと、一般のデイセンターがある。要するに、地区リーダーは、訪問サービスも入居施設サービスも通所サービスも、その地区にあるすべてのケアサービスを統括して責任を持っている。

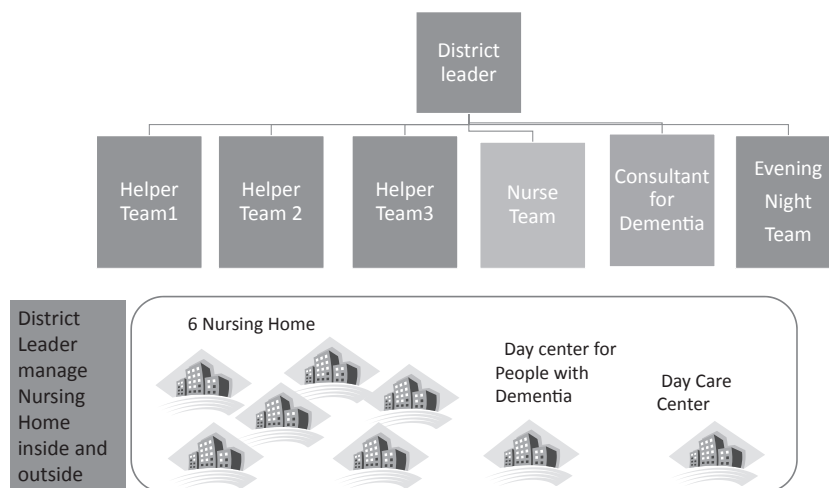


Fig.3. Care System in South District in Silkeborg

2. ホームヘルプサービスの24時間提供のしくみ

シルケボーの南地区に居住する市民でホームヘルプサービスを利用している人は250人～300人。これらの利用者に対して、日勤帯のホームヘルパーチームは3つ。それぞれのローカルエリアを分担してホームヘルプサービスを提供している。各ヘルパーチームでは各ヘルパー25人が雇用され、毎日15人～18人のホームヘルパーが働いている。

Table16. 24 Hour Home Help Staffs in South District in Silkeborg

Total Number of Home help User: about 250~300	
Day Time 7-15	3 Team Every team 15~18 helpers /one day (Total Employee 25) Team1: Service in country area, Locate at nursing home in country. Team2: Service in city area Team3: service in the central of city area (Team2&3 locate at the same house as helper station in center)
Evening Time 15-23	4 helpers /one day (Total Employee 6) 1 helper service in country area 1 helper service in city area 2 helpers((8hours worker a day, 4 hours worker a day) service in the central of city area. Evening team locate together with Day team in center.
Night Time 23-7	3 helpers / one day / Total 6 1 helper service south country 1 helper service city area 1 helper service in central of city Night team locate together with Day and Evening team in center.

準夜帯は、6ヘルパーが雇用され、一日4人が働いている。4人はそれぞれローカルエリアを分担している。深夜帯は、6ヘルパーが雇用され、一日3人が働いている。

3. 訪問看護の24時間提供のしくみ

シルケボーの南地区に居住する市民で、訪問看護を利用している人は約200人。これらの利用者に対して、日勤帯の訪問看護師30人が雇用され、一日あたり12人の看護師が3チームに分かれて訪問看護を提供している。例えば訪問看護チーム①は5~6人の看護師で構成され、農村部にある介護特別住宅にある訪問看護ステーションを拠点として看護サービスを提供している。訪問看護チーム②は2~3人の看護師で構成され、一般市民宅の訪問看護を行っている。訪問看護チーム③は3人の看護師で構成され、一般市民宅の訪問看護を行っている。また、別途、痛みコントロールや皮膚ケアなどの専門看護師3人もいて、エリアを問わず必要な助言や訪問看護を提供している。

準夜帯は、4人の看護師が雇用されていて、一晩に2人が勤務している。4人の内2人は準夜時間

Table17. 24 Hour Nursing Care Staffs in South District in Silkeborg

Total Number of Nursing Care Users 200	
Day Time 7-15	3 Team 12 Nurse / one day (Total Employee 30) Team1: 5~6 Nurse (Total 8), Service in country area, Located at Nursing Home Team2: 3Nurse / one day(Total 6),Service in city area. Team3: 3 Nurse / one day(Total 5), Service in city area. Team 2 & Team3 Located together at the building in central city. + 3 Specialized Nurse
Evening Time 15-23	2 Nurse / one day (Total Employee 4) 1 Nurse service in south country area. 1 Nurse service in city area (2 Ns work in the Evening only, 2 Ns work in Day and Evening) * Evening Nurse also service include citizens live at Nursing Home
Night Time 23-7	1 Nurse / one day(Total Employee 2) 1 Nurse service in All south area * Night Nurse also service include citizens live at Nursing Home

帯だけ働く契約で、2人は日勤と準夜時間帯で働く契約を結んでいる。準夜看護師は、市民宅だけではなく、エリアにある介護施設も訪問する。介護施設には夜勤をする看護師が配置されていないので、地域担当の訪問看護師が、居宅も施設もすべてカバーする。深夜帯は、2人の看護師が雇用されていて、1晩、1人が勤務している。深夜看護師は南地区全域、居宅の市民も施設の市民も看護を必要とする人すべてに看護を行う。

<ネストベ>

ネストベは、総人口81163人、65歳以上人口15254人、高齢化率18.8%。ネストベはコペンハーゲンから電車で1時間、近隣市町村を合併して大きくなった中核自治体である。

1. リハビリキャンペーンプロジェクト

2012年から、これまで以上に運動トレーニングを強調し、ユニークなポスターを作製している。

Do training everyday,
after you will drive motor bike.

Project in 2012 in Naestved



Fig.4. Everyday Rehabilitation Project

2. ホームケアケアサービスの組織

ネストベは市内を東西南北4つに区分している。ローカルセンターはホームケアサービスの拠点となっている。ネストベの特徴は、ヘルパーチームや看護師チームに分けずに、ヘルパー・SSA[※]・看護師・理学療法士・作業療法士をMIXした多職種チームにしていることにある。ヘルパーは8つの小さなヘルパーチームに分かれ、昼間は小さなエリアを訪問している。看護師や理学療法士はチームメンバーとして、申し送り時に同席し、情報交換を行う。利用者の生活を多職種で支援するしくみがある。

(※SSA：Social-og-SundhedsAssistant 社会保健アシスタント（約1年8カ月の教育）は、看護師の管理のもとで日常的な医療処置—インシュリン注射や与薬やカテーテル交換などを行える。介護施設や在宅部門に加え、病院でも働いている。デンマークでは、介護施設や在宅ヘルパー部門で働くための基礎資格としてSSH：Social-og-Sundhedsjaelper 社会保健ヘルパー（約1年2カ月の教育）になり、SSHがさらに教育を受けSSAとなる。)

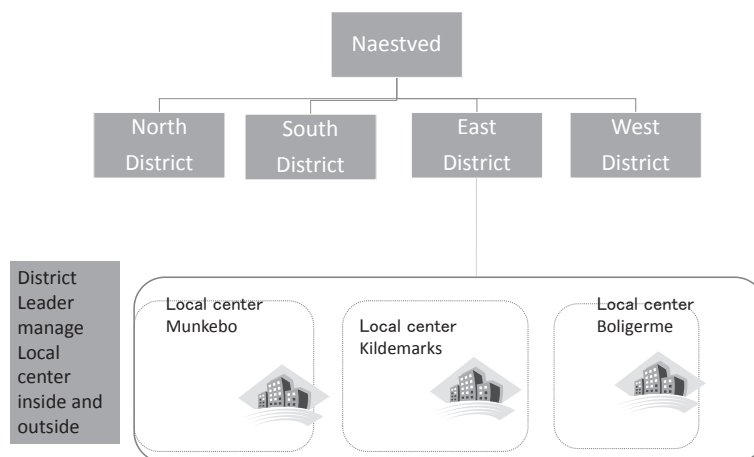


Fig.5. Home Care System in Naestved

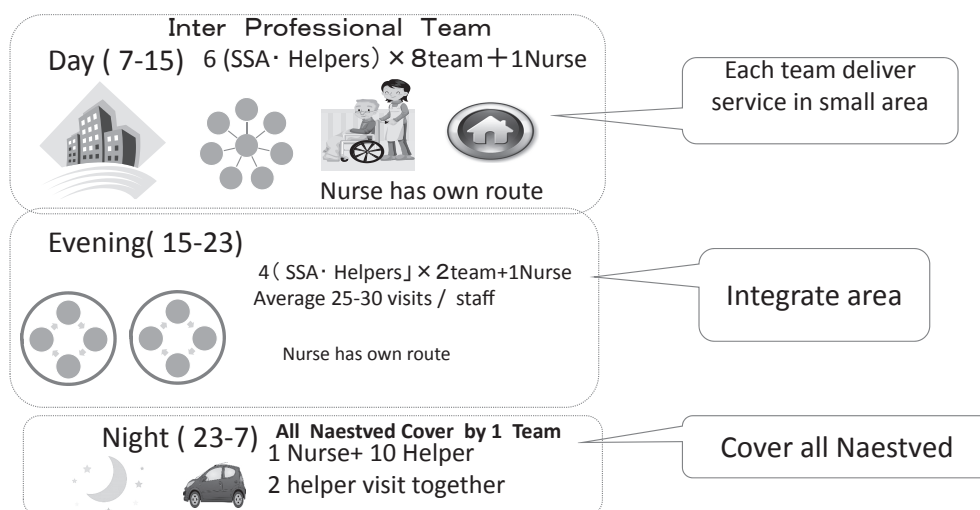


Fig.6. 24 Hour Home Care System at Local center Kildemarks in Naestved

3. ホームヘルプサービスの24時間提供のしくみ

例えばキルマークスセンターには、プライエム（介護特別住宅）があり、ホームケアチームの詰め所（事務所）として使われている部屋が複数ある。プライエムで暮らす要介護者にサービスを提供するInside職員チームもあれば、キルマークスセンターから地域訪問に出かけるOutside職員チームもある。夜間は、Inside職員とOutside職員が協働することもある。日勤時間帯は、看護師とヘルパーのMixチームで稼働している。朝のミーティングは皆が顔を合わせる。看護師は看護を必要とする市民宅を訪問する。ホームヘルパーは、6～7人規模のグループになり、それぞれ分けされた小さな地域を担当する。

準夜は看護師1人+ホームヘルパー4人=計5人で構成された2チームが、キルマークスセンター周辺を訪問稼働している。ヘルパー1人あたり、一晩に、準夜時間帯に25～30回の訪問を行う。準夜のエリアは、日勤エリアのいくつかを統合した広めのエリアを担当する。深夜は看護師1人+ホームヘルパー10人で構成された1チームになる。ヘルパー2人いっしょに車に乗り、5ルートで、ネストベ市全域をこの1チームがカバーしている。

IV 市町村がコントロールする民間ホームヘルプサービスの営業時間

デンマークでは、もともと市町村直営の公的ホームヘルプサービスだけだったが、2003年から、マーケットが開放された。民間経営のホームヘルプサービス事業所が参入し、市民はどのヘルパー事業所のサービスを利用するか選べる、フリーチョイス制となった。デンマークのホームヘルプには、介護ホームヘルプと家事ホームヘルプの2つの別々のサービス類型がある。

市町村とホームヘルプ事業所との間で契約が行われる。民間ホームヘルプサービス参入許可に際して、営業時間について契約をすることになっている。家事ホームヘルプ事業所の営業時間は、「月曜～金曜日の平日のみ、7時～15時」でよい。だが、介護ホームヘルプ事業所の営業時間は、「利用者がいてもいなくても24時間体制でサービスを提供し、利用者からのアラームへも24時間で対応もしなければならぬ」と、定められている。

実際の民間ホームヘルプ事業所と市役所との契約を調べた。結果、オーフス市役所とネストベ市役所は、民間の介護ヘルプ事業所に24時間ケアサービス稼働を義務づけていた。だが、シルケボー市役所は、24時間稼働の事業契約や、あるいは、7:00-23:00稼働のどちらかを選んで市役所と契約することができるしくみにしていた。7:00-23:00稼働の民間介護ヘルプ事業所の場合、23:00-7:00の時間帯は、市町村直営の公的ホームヘルプサービスが、民間介護ホームヘルプ事業所をカバーするしくみになっていた。

オーフスでは、家事ホームヘルプ利用者数は、民間ヘルプ事業所25%に対して市町村直営公的ヘルプ75%である。一方、介護ホームヘルプは、民間ヘルプ利用者はわずか5%、市町村直営公的ヘルプ利用者が95%と、公的ヘルプのシェアが圧倒的に強い(2013年6月オーフス市職員インタビュー)。

2012年のオーフスの民間介護ホームヘルプ事業所総稼働時間をみると、夜間訪問が全体の約3割になっていた。

日本では、市町村は事業所を指定するだけで、営業時間は事業所まかせである。介護報酬上24時間の報酬がついているものの、「ニーズがあれば対応しますが、夜のケアを必要とする利用者がいない

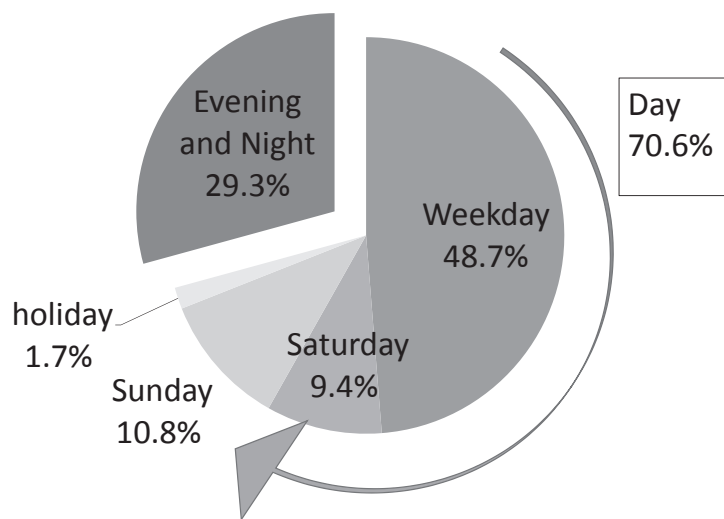


Fig.7. Total Home Help Service Hour delivered by Private Home Helper Agent in Aarhus in 2012

ので、夜間サービスは提供していません」ということがまかり通る。たった一人の夜間利用者のためにスタッフを雇用できない。採算がとれないことには事業所はのりだせない。夜間サービスをほんとうに日本で提供するしくみが必要だというならば、市町村の役割を見直し、サービス提供の土台をつくるべきであろう。

IV 考察

1. デンマークと日本の夜間ホームケア利用率

今回のデンマーク研究の結果、ホームヘルプサービスの準夜時間帯（15時～23時）利用は、ホームヘルプサービス利用者全体を100人とする、オーフスの準夜ホームヘルプ利用者は23.1人、シルケボーの準夜ホームヘルプ利用者は33.9人、ネストベの準夜ホームヘルプ利用者は15.2人ということになる。ホームヘルプサービスの深夜時間帯（23時～7時）利用者は、ホームヘルプサービス利用者全体を100人とする、オーフスの深夜ホームヘルプ利用者は4.2人、シルケボーの深夜ホームヘルプ利用者は6.6人、ネストベの深夜ホームヘルプ利用者は5.7人であった。訪問看護はシルケボーのデータしか得られなかった。シルケボーの訪問看護利用者全体を100人とする、準夜訪問看護利用は27.1人だった。深夜帯利用率は8.2人であった。

では、日本はどうか？日本では、1995（平成7）年、24時間ホームヘルプサービスが、市町村の委託事業として制度化された。2000（平成12）年、介護保険法が施行され、ホームヘルプサービスは介護保険「訪問介護」と呼ばれるサービスになった。介護保険制度上、24時間の介護報酬がつけられ、稼働は可能である。だが、実際は、平日の昼間中心で稼働している事業所がほとんどで、土日祝日のサービスを提供する事業所は限られ、夜間を含めた本当の24時間サービスを提供している訪問介護事業所は限られている。筆者らの研究では深夜にサービス提供していた事業所は15%であった³⁾。筆者らが2004年に行った研究結果³⁾では、東京都内の3自治体から、訪問介護の介護報酬データ、3ヶ月分を入手して、早朝・夜間・深夜の時間帯別の訪問介護サービス利用者数を把握した。結果、早朝・夜間帯の訪問介護利用者は、訪問介護利用100人に対して1.6人～5人。深夜帯の訪問介護利用者は3自治体ともに、訪問介護100人に対して1人未満であった⁴⁾。

2006（平成18）年、介護保険の地域密着型サービスとして「夜間対応型訪問介護」が創設され、さらに地域包括ケアの柱として、2012（平成24）年「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」が創設された。だが、夜間ケアサービスの実態は「ない」に等しい状況が続いている。厚生労働省の「介護保険事業状況報告」⁵⁾ 2015年7月のサービス利用実績を調べると、「夜間対応型訪問介護」の利用者は全国で7,917人、「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」の利用者は全国で10,414人であった。定期巡回随時対応型訪問介護看護の都道府県別利用状況を見ると、青森県（-）、栃木県（-）、徳島県（-）、佐賀（2人）、栃木（3人）島根県（4人）、と一桁利用から数十人規模にとどまっている自治体が目立つ。比較的利用者数がある自治体は、北海道（1,904人）、東京都（1,146人）、神奈川県（811人）、大阪府（947人）であった。夜間対応型訪問介護は、制度が作られて10年目だが、いまだに、サービス利用実績がゼロという県が12もある（青森県、秋田県、栃木県、群馬県、福井県、山梨県、滋賀県、奈良県、徳島県、高知県、佐賀県、宮崎県）。

筆者らの研究結果と、介護保険事業報告からわかることは、日本では、ホームヘルプサービス利用者が100人いても、夜間時間帯にサービスを利用している人は1人いるかないかというレベルであり、夜間サービスはないに等しい。社会サービスとして目に見えないレベルである。現状は、夜間ホームヘルプサービスは、人口密度がある大都市圏で、ビジネスとして成り立つ地域に、限定的な事業所によって、限定的な人を対象に、サービスを提供しているに留まっている。

2. 夜勤専従者が働きやすい労働条件と訪問ルートづくり

24時間ケアサービスを行うためのスタッフの雇用に注目して考えてみたい。オフィスでは、準夜時間帯は、一晩3人を稼動するために計6人のホームヘルパーを雇用している。深夜時間帯は、一晩2人を稼動するために計4人のホームヘルパーを雇用している<Table4>。なぜ一晩で働くスタッフの倍の人数を確保しているのかを聞くと、理由があった。ネストベでは詳細を尋ねることができた。

Table19に示すように、準夜時間帯雇用されている10人のヘルパーは、それぞれの訪問ルートが定まっている。例えば、Route1はAさん<看護師>が担当する。同じRoute1を担当するBさん<看護師>も雇用されていて、Aさんが勤務のときは、Bさんは仕事を休む。スタッフは2つのチームに分かれており、今晚働いているスタッフは、Aさん、Dさん、Fさん、Gさん、Iさんの5人で、BCEHKさん

Table 19. How deliver Home Help Service in the Evening in Naestved

		Name		
Route 1	Ns	A	Working today	16-24
Route 1	Ns	B	Off	
Route 2	Helper	C	Off	
Route 2	Helper	D	Working today	16-24
Route3	Helper	E	Off	
Route3	Helper	F	Working today	16-24
Route4	Helper	G	Working today	16-24
Route4	Helper	H	Off	
Route5	Hepler	I	Working today	16-24
Route5	Helper	K	Off	

Fix Visiting Route
Share Two staff for one visiting route
Every Staff knows visiting route also the citizen well.

Table 20. Working rhythm in the Evening in Naestved

Example

Helper A				
	5 work	5 off	2 work	2 off

Helper K				
	2work	3 off	3work	2 off

Evening Helper work in the Evening only

は休みなのだ。常に、表と裏で2チームが交代する。

夜勤ではあるが、勤務にリズムがある。5連続で働き、5連続で休む、というように、生体リズムを整えられるような勤務になっている。訪問ルートをおある程度固定することになるので、利用者と顔なじみになり、ホームヘルプ内容も、ドライブする道も、ヘルパーの頭に入っている。ホームヘルプサービスを提供しやすいという利点がある。

このように、デンマークでは、日勤のヘルパーが深夜勤務をすることはない。日勤で雇用されたヘルパーは日勤で働く。準夜で雇用された人が準夜で働く。深夜で雇用された人が深夜に働く。契約した時間帯で働いている。

日本では、常勤雇用の介護職は契約した時間で働くことはできない。日勤・早番・遅番・夜勤も、勤務シフトが生まれ、体を休める時間を確保することが難しい。月に4回の夜勤どころか7回・8回の夜勤がまわってくることもある。日本でも夜勤者を確保していくためには、夜勤の人が働きやすいルート固定や、生体リズムに合わせたシフト、夜勤専従で働く人を厚遇した労働条件で雇用できるようにすすめていくなどの必要があるだろう。

3. 夜間時間帯のケアサービスの頻度や量を決定するしくみ

デンマークの24時間ホームケアの申し込み・アセスメント・プロセスについては、別文献¹⁾に述べたが、24時間ホームケアシステムは、雇用を整えると同時に、夜間ケアを必要とする人をどうスクリーニングして、サービスに結び付けていくか、ケアマネージャーが鍵となる。出会うケアマネによって夜間時間帯のケアサービスの必要な人が漏れてはいけないうし、サービス時間量に大きな差があってはならない。デンマークでは、そのためのツールとして、「クオリティスタンダード」「標準アセスメント」「ケア・パッケージ」がそれぞれの目的で開発され使用されている。

Table18. Care management tool

	Arhus	Silkeborg	Naestved
Quality Standard “Lovomkvalitetsstandarder” in Danish	Yes	Yes	Yes
Common Assessment Tool “Faelles sprog” in Danish	Yes	Yes	Yes
Care Package : Categorized Needs and Service	Yes	Yes	Not Use

多くのデンマークの市町村では、ケアマネージャーをビジテーター-Visitorと呼んでいる。オーフスでは2012年にビジテーター組織を改編し、「市民コンサルタント（Citizen Consultant）」と呼んでいる。市民コンサルタント（ビジテーター）は市役所職員で、ケアサービスの種類・時間・回数などを判断する。オーフス市では、地区を受け持つ市民コンサルタントは63人。1地区に5～8人の配置で9地区にいる。別途、特別な専門領域をもつ市民コンサルタントが16人。電話コールセンターにいる市民コンサルタントは8人。コールセンターでは情報提供や、訪問の必要があるかどうかをス

クリーニングする。コンサルタントの基礎資格としては、7割が理学療法士や作業療法士、3割が看護師であり、リハビリトレーニングがケアサービスの柱になっていることも背景に、近年はリハビリ職の占める比率が高まってきているという。

例えば、市民がホームヘルプサービスを利用希望したとき、市役所に連絡すると、市民コンサルタントが面談してサービス決定を行う。介護ホームヘルプが必要か、どのくらいのサービス時間量のヘルプが必要か、家事ホームヘルプが必要か、夕方の介護ホームヘルプが必要か、深夜の介護ホームヘルプが必要か、等を判断する。判断結果、サービス決定通知が市民に届く。例えば、通知には「介護ホームヘルプを日中と夕方に利用できます。掃除は3週間に1回。配食サービスを利用できます。」と書かれている。

事業所ごとに夜間ケアの必要性を判断するのではなく、夜間時間帯のケアサービスが必要かどうか、ケアマネジャー役の人が判断する。デンマークでは必要なサービスニーズを判断するビジテーターは行政職員で、サービス提供事業者とは切り離されている点に特徴がある。市民は、サービス決定通知をもらったあと、自由にサービス提供事業所を選択して利用する。2段階のしくみは明確に分かれている。

ビジテーターによって判断に差が生じないための、サービス標準化の工夫もある。1998年Quality Standards法 (LovomKvalitetsstandarder) が制定された。市町村は自分の市の行政ケアサービスについて、わかりやすく、誰もが共通のことばで理解できるように、「クオリティスタンダード」をインターネット上に公表している。これは、市町村自治体がどのケアサービスをどこまで行うのかについての市民への約束である。

市町村は、ビジテーターが使う標準アセスメント (Faelles sprog) も作成している。いわば、介護を必要とする人と面談する際、自分で何をすることができるか、どのくらいの援助を必要とするかレベルチェックである。さらに、チェックしたアセスメント情報を使って市民の状態像を類型化し、このような状態像の人だと、このようなサービス内容で、ホームヘルプサービス時間はこれくらいかかる、ということを見積もり、ホームヘルプサービス時間を設定した「ケア・パッケージ」を開発している。オーフスとシルケボーは「ケア・パッケージ」を開発・使用していた。このように、夜間ケアサービスを必要とする人をスクリーニングし、サービス時間量を見積もれる、ケアマネ支援ITソフト開発が行われていた。

日本では、市町村がサービス事業所と切り離したケアマネジメントを行うしくみにはなっていない。よってこのしくみを日本に入れることは不可能であるが、どのケアマネジャーがアセスメントしても、一定のレベルで、24時間ホームケアシステムのしくみとして、夜間ケアを必要な人をきちんとアセスメントするためのケアマネ研修と、どのようなレベルの人にどのようなケアサービスをどう行うとどのような効果があるのか、事例を積み上げていくことが大切であろう。さらには、夜間ケアを組み込んだサービスプランを作成したことのある経験豊かなケアマネジャーの判断を組み込んだITソフト開発が待たれている。

おわりに

デンマークでは深夜ホームヘルプも深夜訪問看護も必要な人には提供されていた。今回のデンマーク研究で、①夜間ホームケアを必要とする人にサービスを届けるための地区分担と包括的なサービス連携。②夜間時間帯のケアサービスの頻度や量を決定するしくみ、③ケアマネの判断に差が生じないための標準化の工夫、④営業時間を事業所まかせにせず、市町村のコントロール権限役割を見直し、サービス提供の土台をつくる、⑤夜勤の人が働きやすいルート固定や、生体リズムに合わせたシフト、夜勤専従で働く人の厚遇、が日本の24時間ケアサービス普及を推進するということではないかという示唆を得た。夜間サービスを必要とする人は重介護者であり、ケアニーズも変動する、その人を支えていくサービスは専門性が求められる。赤字にならないようにビジネスバランスも求められる。介護サービスの質と事業所運営をともに満たした制度づくりは簡単ではないが、今回の研究が、日本の24時間ホームケアを一步でも先へ導く糧となることを願いたい。

謝辞

本研究は、VIA University CollegeのInger- Margrethe Jensen, Lars Peter Bech Kjeldsen, David Mayntzをはじめとする教職員の方々、Aarhus KommunemのGitte Krogh, Claus Rasmussen, Silkeborg kommuneのInge Bank, Martha Hojgaard, Naestved KommuneのBirgitte Ettrup, Bodil Paaske, Karin Vibeke Kristensenの協力を得て行った。心より御礼を申し上げる。

引用文献

- 1) 渡辺裕美、変革するデンマークの24時間ホームケア、ライフデザイン学研究9、383-407、(2013)。
- 2) 渡辺裕美、デンマークネストベッツ市における24時間ホームケア
上記論文のデンマーク語訳
Hiromi Watanabe, Dansk oversættelse af Miho Sakurai, Døgnpleje i Naestved, Danmark.
日本社会事業大学社会事業研究所年報、第32号、281-295、(1997)。
- 3) 研究代表者 渡辺裕美、24時間ホームケア 夜間訪問実態と潜在的な訪問需要の推計に関する研究、平成15年度～平成17年度 科学研究補助金（萌芽研究）研究成果報告書、(2006)。
- 4) 渡辺裕美、人見朋子、24時間ホームケア—介護報酬分析による夜間訪問介護利用実態をふまえての考察—、介護福祉学、Vol.14、No.2、163-174 (2007)
- 5) 厚生労働省の「介護保険事業状況報告」2015年7月。

Statistical questionnaire survey and field work in 24 Hour Home Care in Denmark – How night home help service and home nursing is delivered in three Danish municipalities in Aarhus, Silkeborg and Naestved-

WATANABE Hiromi

Abstract

In Denmark, Home care has been reformed over the last decade. Each municipality has responsibility to offer personal care and practical help for 24 hours. Citizens can choose freely between public and private suppliers. Both suppliers deliver 24 hour care and answer emergency call from citizens.

A previous study showed that only few Japanese citizens use night help. However, in Japan no service is offered for night care at the moment. Therefore a survey will not provide knowledge about the actual need for night care.

The aim of this study is to describe how 24 hour home care is delivered in Denmark and to investigate how many citizens uses home help service at night. The results may be an indicator for the needs of night care in Japan.

The study used a Statistical Questionnaire Survey, interviews and field work in three Danish municipalities: Aarhus, Silkeborg and Naestved. Data from questionnaires were collected over 3 month from January to March 2013. The results showed that the cover rate of home help service users at night (23:00–7:00) /total home help users was: 4.2% (Aarhus), 5.7% (Naestved) and 6.6% (Silkeborg). A Chi-square test showed significant difference between municipalities. The results show that if Japanese elderly has similar requirements as elderly in Denmark, approximately 5% will be expected to need night care.

Interviews and field work revealed tight control with care management. Care was provided as shorts visits several times daily according to specific needs. To increase flexibility, needs were reassessed by care personnel during visits and empowerment of citizens were encouraged.

Keyword: 24Hour home care, Home help service, Night care